

ITI Scholar NEWS

vol.18 (2025, January)

ITI Section Japan



ITI スカラー通信第 18 号をお届けします

谷ノ口 洋実 先生

University of Geneva (Geneva, Switzerland)

みなさん、いかがお過ごしでしょうか？

日本の冬も寒さが増してきていると伺っております。

月日が流れるのは早く、留学が始まってからもう少しで4ヶ月になります。家が無事に見つかったおかげで落ち着くことができ以前よりも大学のお仕事に集中できるようになっております。

私の在籍する補綴科では、当然補綴治療が多いですがこちらに来て感じているのは、これまで見てきた日本の補綴治療のための形成量と比べるとかなりジュネーブでの形成量は少ない印象です。Minimum Invasiveの考え方も非常に強く、日本ではクラウンを選択するようなケースでもまずはオンレーを選択する傾向が強いです。1歯の中間欠損でも Resin Bonded Bridge を選択することが多いです。

ジュネーブ大学の補綴科ではデジタルデンティストリーのワークフローが構築されており、Disney の映画制作に使用されるモデルで世界に3台しかないフェイススキャンも導入されており、患者のスマイルラインや顔貌とのバランスをバーチャルペイシエント（デジタル上での患者モデル）を作製して最終補綴物のデザインなどを歯科医師、技工士と密に連携しながら相談したうえで患者さんに説明を行い、施術前から治療完了までを模型無しで進めていきます。

ジュネーブ大学以外の活動としては今年のミラノで開催された EAO で Oral Communication の発表の Co-author として参加した際にスイスから乗ったミラノ行きの同じ電車にたまたま Prof. Buser が乗っていてご自身のコースに来るようにと招待してくださいました。そんな偶然もありベルンで行われた Buser and Sculean Academy の Esthetic Master Course に参加してきました。16のレクチャーと3つの Live Surgery、そして2つのテーマのハンズオンと非常に密度の高い三日間でした。たくさん勉強させていただき、とても素晴らしい経験でした。





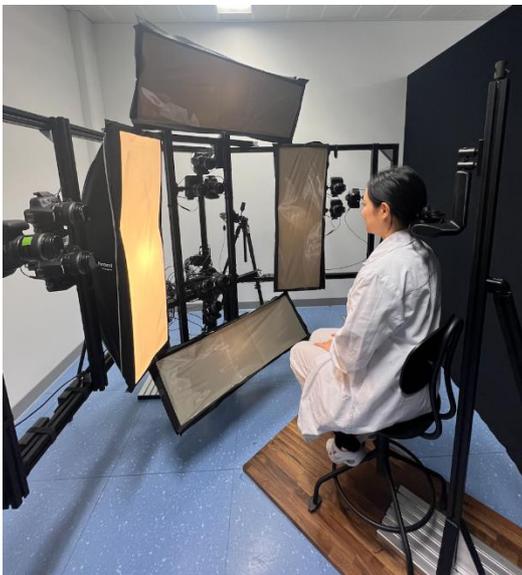
Prof. Buser によるレクチャーの様子



ベルンのセミナーでのハンズオンの様子



スイスのスカラシップセンター（Basel, Zurich, Bern）から他のスカラーがジュネーブ大学に見学にきてくれました。他のスカラーとの交流ができてとても有意義な時間になりました。



ジュネーブ大学 フェイススキャン



ベルン大学を見学



ジュネーブ大学以外でも、Prof. Daniel Buser からお誘いを受けてベルンに行きオペの第一アシとして多くを勉強させていただいています。



ジュネーブ大学にて EAO の Expert Clinician Course on Implant Prosthodontics を行った際の集合写真



Prof.Sailor とチーム・ジュネーブ、参加者との写真



ジュネーブ大学歯学部の2024年の Gala Dentaire にて
医局のメンバーとの写真

ありがとうございました。

